

磯の香

ふるさと訪問旅行特集



清川陣屋桜のトンネル

東京上磯会 会報第4号(1999年)

創立五周年に想う



東京上磯会会長

相馬 正樹

私が「北海道道南会」の会員として毎年総会に出席して、気がついたことは、上磯町の出身者が新人会員として紹介されるが、一回だけの出席に終り定着しないことであつた。その人達に直接聞いてみたら、知らない人ばかりでつまらないからだということが分かり、それでは上磯の出身者だけでふるさと会を作ろうではないかということになって、初めての世話人会がもたれたのが平成六年の十一月でした。

平成七年二月に発会式を挙行しましたが、予想をはるかに上回る一三〇余名もの上磯出身者が出席して驚かされました。それから、徐々に会員の情報を集めて名簿を整備し、五年目を迎えて四〇〇名に近い会員の消息を把握することができました。その後、会を重ねて五周年を迎えることができたのは、会員の皆さんのふるさと上磯町に寄せる郷愁の根強さを物語るもので、

これをいつまでも燃やし続けて欲しいものであります。お陰をもちまして、今年は創立当初からの念願でありました「ふるさと訪問旅行」も実現することができましたことは御同慶の至りです。

この間、本会の発足以来、町からうけた御協力は計り知れないものがあり、東京で催される総会、懇親会には毎年町長をはじめ町の関係者ならびに町議や有力者方々の出席を賜り、参加者には上磯の名産の土産を頂戴するなど、本会に対する行き届いた御配慮に対しまして、心から感謝を申し上げるとともに、われわれは町のみならずと共々来るべき二一世紀に向けて、ふるさとのさらなる前進を願う声援を送り続ける覚悟を新たにします。





歓迎の挨拶

上磯町長 海老沢 順三



東京からの長旅、ようこそ上磯
において下さいまして、ほんとう
にご苦労様でした。皆様を三万六
千人町民と共に心より歓迎申し上
げます。また、東京上磯会五周年
記念ふるさと訪問を企画されまし
たスタッフの方々の大変なご苦労の積み重ねの中で実現され
ましたこと、大変うれしく思います。

東京上磯会は、平成七年二月に東京および近郊の方々の会員
総数約三百名で設立され、結成五周年本当におめでとうござい
ます。これはひとえに相馬会長さんをはじめ、役員・会員各位
の一人となった結束力の賜ものと敬意を表したいと存じます。

私たちの町上磯町は、町議会初め諸先輩の努力と町民の英
知により、町勢は確実に前進を続けておりますが、会員の皆
様の郷土を思う心に触れ、行政を担うものにとつて力強い援
軍と心より感謝申し上げます、さらに一段と気を引き締めて上磯

町の町づくりを進めなければならないものと痛感しているところでございます。

今後、ふるさと上磯町を暖かく見守って下さると共に、東京上磯会が息の長い会として益々発展されますよう心からご祈念申し上げます、ふるさと訪問に際しての歓迎の挨拶と致します。

「ふるさと訪問の挨拶」

東京上磯会々長 相馬正樹

東京上磯会創立五周年記念事業の一環として、ふるさと訪問を企画し、会員の中から参加を募って郷土上磯町にやってまいりました。本会は、お陰をもちまして発足して五年を迎え、その運営も軌道にのり、会員数三百名を越える組織に発展して参りました。現在のように飛行機で簡単に行き来のできなかった時代に東京に移り住んだ人達にとっては、今でも故郷に対する郷愁は一人のものがあがり、上磯町を離れて三〇年、四〇年を過ぎようとしておりますが、生活環境、産業基盤、教育施設など当時にくらべ目を見張る施設が整備されており、海老沢町長さんの手腕と町議会議員の皆さんの未来を見通す見識との見事な調和が窺い知られ、心から敬意を表します。

私たちの心の中のふるさととは懐かしく、故郷の限り無い前進は、この町に生をうけたものとしての誇りでもあります。今後とも上磯町の益々の発展と、海老沢町長さんをはじめ、本日御出席の皆さんのご健勝と御繁栄をお祈り申し上げますとともに、今後とも本会に対して暖かい御支援をお願いしてお礼の御挨拶と致します。

歓迎のつどい出席者



東京上磯会会員

会長 相馬 正樹 (神奈川県逗子市)

副会長 郷内 繁 (東京都世田谷区)

会計監査 相馬 滋 (横須賀市)

事務局長 高橋 昌三 (東京都新宿区)

幹事 石井 郁子 (東京都練馬区)

山下 勇吉 (東京都江戸川区)

石塚美耶子 (東京都江東区)

小笠寺直巳 (茨城県龍ヶ崎)

高橋 昌一 (川崎市)

伊藤 幸男 (静岡県浜松市)

高橋 昌次 (練馬区)

水越 康彦 (葛飾区)

水越佐登子 (葛飾区)

山川 毅 (相模原市)

川村 波子 (新宿区)

川村マキ子 (新宿区)

池田 永子 (葛飾区)

今泉トヨミ (千葉県稲毛区)

菊池 玲子 (中野区)

金谷 忠勝 (調布市)

小林 末子 (江戸川区)

本間 正司 (江東区)

和田 通子 (旭川市)

上磯町の方々

町議会議員 谷杉 正寿

町議会議員

小泉 征男 (東浜)・梅川 典生 (久根別)

菊池 金吾 (富川)・児玉 忠一 (七重浜)

新関 一夫 (常磐)・池田 達雄 (野崎)

小西 信吾 (谷好)・坂見 英幸 (谷好)

浜西 豊 (大工川)

町会連合会会長 黒田 利男 (東浜)

社会福祉協議会々々

松本 禄郎 (中野通)

山崎 博康 (中央)

はまなす漁業協同組合長

丸山権三郎 (茂辺地)

平野 和海 (谷好)

宮崎 高志 (飯生)

海老沢順三 (中央)

助 役 松本 健一 (中野通)

収入役 阿部 進 (常盤)

教育長 田中 則夫 (東浜)

総務部長 小野 建夫 (久根別)

民生経済部長 小川 修身 (久根別)

建設部長 岡本敬一郎 (押上)

議会事務局局長 半田 誠 (久根別)

総務課長 高谷 寿峰 (久根別)

企画財政課長 藤井 義洋 (富川)

総務係長 滝口 直人 (中野通)

町民窓口係長 佐々木良績 (東浜)

文書広報係 出口 弘幸 (七飯町)

町民窓口係 野津 功 (谷好)

ふるさと訪問記

相馬 正樹

「ふるさと訪問旅行」は、東京上磯会創立当初からの念願であった。丁度本年は創立五周年を迎えたのを記念してこれを実行することになった。そして是非立ち寄ってみたい所は、遠足の思い出が残る清川陣屋跡の桜のトンネルというのが大方の希望であった。町役場と相談の結果、五月八日が花の見頃になるだろうということで、この日に決まった。早速會員に呼びかけたが、日が迫っていたせいもあってか、残念ながら参加申込が二十四名と予想を下回ってしまった。

当日九時羽田に集合し函館空港についたのは昼ごろであった。空港には上磯町差し回しのバスが待っていて、小野総務部長さんが自ら出迎えて添乗員とガイド一人二役までしていただいた。函館で昼食後市街を一周して港函館を概観して町役場に向かう。役場の職員の方々の盛大な出迎えをうけ、かねて設けられた式場に案内された。



歓迎式では、海老沢町長ならびに谷杉議長さんの懇篤な歓迎の挨拶を頂き、花束を贈呈されて恐縮のあまりお礼の言葉も出ないほどであった。最近竣工した新しい施設を見せてもらい、屋上展

望台にのぼり、子供のときから見慣れた海を隔てた懐かしい函館の市街と函館山の景色を展望した。

役場を出て、思い出の清川陣屋に案内してもらった。満開には少し早かったが、私にとつては六五年前の桜の古木との再会で、桜花のトンネルは昔の面影通りで、みんなの郷愁を満足させるに足るものであった。清川近くに新しく開発されたダム公園を散策し、旧道から古い町並みをながめ、東浜町からは函館まで町並みがつながってしまった変容を、草原と畑しかなかった昔の上磯街道と重ね合わせてみて、隔世の感を深くした。バスは「歓迎の集い」の会場である七重浜の温泉「スパビーチ」に着いて、忙しかったが印象深い初日のバス観光を終えた。

五時半から対岸に函館市街の夜景を展望しながら、海王館で「ふるさと訪問歓迎の集い」が開かれた。町側の出席者は、谷杉町議長以下十名の町議ならびに町会連合会長以下六名の町の有力者、役場側からは海老沢町長以下助役、収入役、教育長と町の部課長ならびに東京上磯会と関係の深い方々を併せて十四名で、合計三十名に及ぶ文字通り町をあげての歓迎である。当方の二十二名を含む総員五十二名がなごやかに懇親会の座についた。

初めに町長が立って「上磯会の會員の皆様を思う心に触れ、行政を扱う者にとって力強い援軍と心より感謝し、さらに気をひき締めて町づくりを進める所存である。今後とも上磯町を暖かく見守って下さい」と、歓迎の言葉を述べられたのに応えて私から「厳しい選挙を経てめでたく当選された古くて新しい町長に、東京上磯会の會員を代表して心からお祝いを申し上げます。私たちの心のふるさと上磯町が発展していることは私たちの誇りです。情報化社会の中心で生活する私たちの体験をもとに、ふるさとの発展にささやかでも寄与できれば幸いです。わ

れわれは末永くふるさと上磯に応援歌を送り続けましょう」という意味をこめてお礼の言葉に代えさせて頂いた。

続いて谷杉長議長長の祝杯の音頭で歓迎の宴が始まった。早速訪問者側を一人づつ高橋事務局長から紹介し、町側が谷杉議長以下十人の町会議員の方々や海老沢町長以下役場の職員十三名ならびに町の関係組合長その他の重役たちが紹介された。

初めは指定の席にかしこまって座っていたが、宴もたけなわになると昔馴染が寄り添ってなごやかな酒盛りになっていった。余興は会員で浜松市在住の伊藤幸男さんがハーモニカを披露すると、これに合わせて小西町議が「函館の人」を熱唱された。続いてはビジター側から水越佐登子さんが登場し、小泉町議とのデュエットで盛り上げてくれる。しかし、わが方には不用意にも余興の準備はなかったが、いざとなれば、古いながらも…まだ五〇年しか経っていないが…NHKのノド自慢で北海道代表にもなったこともある小田島副会長を切り札に考えていた。予選で上磯座で歌って若い娘のファンから抱え切れない花束をもらったこともある元歌手である。ところが、彼は急に所用で不参加となつたので、急遽谷川小学校の元学芸会のプリマドンナでNHK函



館で歌ったこともある和田通子さんを起用し「コモエスタ赤坂」を披露して頂いた。美貌と美声の二物を享有する才女のせいもあって、満場の不良老年が一瞬固唾をのんで聞き耳をたてた程であった。しかし、彼女は現在旭川在住でありながら、東京在住の息子さんを訪ねたついでに上磯会に出席したのが縁で会員になったという、奇特な会員であることを紹介するのを忘れて失礼してしまつた。

昔馴染の輪ができて、上磯弁丸出しで旧交をあたためているうちに、名残つきないが定刻になつたので、郷内副会長の締めくくりの乾杯を最後に、後ろ髪を引かれる思いで楽しい歓迎の集いの宴を閉じることになった。

二日目には、松前城の桜を觀賞して江差を訪ねる予定にしていたので、八時半の出発に間に合わせてホテルの玄関に集合したら、町長以下昨夕お世話になつた面々が顔を揃えて見送りに見えていた。

松前、江差を周遊して最後は函館空港で解散の予定だから、ここでお別れになるからだ。昨夜の疲れをおして、日曜日の早朝からおいで頂き大いに恐縮したばかりか、お土産まで頂戴してしまつた。その上に、二日目には観光バスをチャーターして、小野総務部長さんは二日連続で添乗員を務め、行く先々で食事や入場料の世話までしていただいた。物心ついてからふるさとを離れ住民税も払わず、何一つ貢献したことのない我々に対して、過分のご好意を頂いたことを心から感謝したい。

この訪問旅行では「東京上磯会」は、大きな負債を抱えてしまひ、これを次の世代に引き継がねばならなくなつてしまつた。願わくは将来の上磯会会員のみなさんが協力して、これが不良債権とならないように努力をしていただくことを願って止まない。

ふるさとを訪ねて 高橋 昌三（東京在住）

函館、故郷、何回つぶやいてもいつも懐かしく優しいひびき。毎年個人的に帰郷はするが今年の上磯会五周年の記念の旅ということで二十数名参加、新たな気分で行立つことにする。

東京を離れて二時間弱、空は晴天正しく絶好の花見ができるだろう。空港には町の差し回しのバスが待っていて、函館市内を一回りしながら上磯町へ。役場の玄関前には町長を初め町議さんたちの他多数の方の暖かいお出迎えをうけ、びっくりするやら面映ゆいやら大感激をしてしまう。他の皆さんも旅の疲れも見せず、同郷同士ならではの会話がはずんでいる。はつきり言ってもうお互いに若くはないのに、心なしか皆の顔に華やいだ明るさを感じ取っていたのは私だけではないだろう。

夜にはまた予想以上の大歓迎、大宴会を開いていただいた。地元の方々のおおらかな優しさに、酒には絶対強い筈の私がついつい気もゆるみ、まことに楽しい一夜を過ごさせていた。ふるさとなまりがしきりに飛び交うのも、また妙にうれしく愉快である。

というわけでグッスリ。夜も明け今日もいい天気恵まれている。私の生まれた町当別の修道院を見学。私ごとだが、我が家は当別の駅の間際にある。後には美しい山々が見え、足元には綺麗な川が流れ、目の前には広々と津軽海峡の海が開けている。よく人に羨ましがられていたが、住んでいるときには何も感じなかったのに、改めていい環境に育つたものよとしみじみ思いながらテクテクと五〇〇米程の並木道を歩く。途中ほとんど出会った人もなく。そして、そこは音のないような世界、大きな館：そこがトラピスト修道院である。そこには私の六〇年の人生など

あつという間に飛び越えてしまふほど何も変わらぬ厳然とひっそりと、しかし確かな存在で建っていた。

都会の騒音という厳しい現実の中に毎日身をおいている自分がフッと空しくなるような、そして心を洗って貰えるような：短い時間だがそんな瞬間であった。

それから間もなく一行はいよいよ今日の目的地松前の花見へと向かった。何百種類の様々な美しい桜が一斉に花開き微妙な色合いで見上げる私たちを圧倒する。「すごい、これが本当の花見だよ」誰かが叫んでいる。そうだがこれが本当の花見だ。私はなんと五十年ぶりにここに来たのだが、まるで初めて見るように美しさに酔いしれた。そして楽しい時は瞬く間に過ぎる。

その日のうちに帰宅された方々が多数あったが、私は兄弟と共に年老いた母に会うため残ることとなった。これも私事になるが、その母も去る七月九日天寿を全うして安らかにこの世を去った。上磯会の旅行のお陰で生前の母に会うことが





できて良かったと思っっている。

今回のふるさと訪問には、人それぞれいろんな感慨があったであろう。ふだん忘れていた自然との触れ合い、行く道すがらの懐かしさ、そして何よりもふるさとの人々の何と暖かいおおらかさ。私にとつてこの短い旅は、そんな気持ちを十分過ぎる程味あわせてくれた心弾む旅であった。最後になつたけれど、上磯のみなさん、本当に本当にありがとうございます。

ふるさと再発見

相馬 滋 (横須賀在住)

東京に住みついて四五年、この間帰省した回数は平均年一回ぐらいでチャンスの少ない方でした。行く度に町並みは変わり、新道ができ古い道端は寂れ、居住している人にとつて

はより住みやすい方向に変化している筈ですが、昔足で覚えた長い町中も、今の車社会ではバイク新道で一瞬。ふるさとを思う気持ちは変わらないが、早い変化に乗り切れずつい億劫になつていたところ、「ふるさと訪問旅行」に

ありつき、東京の花見は四月に終わったが、一か月後に桜前线に追いついて、むかし懐かしい清川陣屋の桜に出会うとは。

ふるさとでの花見は五〇年ぶりでした。途中の町並み、道路、観光案内などは今はすっかり整備され、見る目線の違いもあるが、昔の面影は少なく唯々町の発展に驚くばかりでした。

翌日は松前城公園の花見で、多種多様な見事な八重桜を觀賞してふるさと北国の花見を堪能することができました。上磯町をはじめどの町も郷土芸能や特産品の発掘など、町起しに尽力されている様子がよく分かりました。今回の旅行は終始天候に恵まれ、絢爛たる花見と盛大な歓迎会とは、私にとつては忘れることのできない実り多いふるさと再発見の旅となりました。これもひとえに海老沢町長をはじめ皆様の心暖まる御配慮の賜物で、感謝の念で一杯です。これを機に、ふるさと上磯のPRにつとめ、お手伝いできることを模索して行きたいと考えております。

何はともあれお世話になりました。郷土上磯町の今後益々の発展と皆々様のご健勝をお祈り申し上げます。

「よみがえれ故郷の山・川・心」

山下 勇吉 (鹿島市在住)

今年五月のふるさと訪問旅行で何十年ぶりで帰郷された方もいたと思いますが、いかがだったでしょうか。建物、町並みの変貌には驚かれたことと思います。しかし、海老沢町長以下町関係者の多大な歓迎、中国風にたとえていうならまさに「熱烈歓迎」そのもので、上磯人の変わらぬ人情を目の当たりにしたと思います。



幸い天候にも恵まれ、短い時間ですが戸切地陣屋の花見ダム公園の散策、トラピストでは時間が早かったので売店が開いていないために、お目当ての御土産が買えなかったり等々心に残る時を過ごされたことと思います。しかし、私のように毎年何度も帰省している者の目で見ますと、「山」「川」「海」の変わり行く様々の姿を見ては、どうしてこうなったのだろうかとつくづく考えさせられる事ばかりです。

まず、山です。山の自然環境を破壊したとも言える元凶は、広葉樹林を伐採して針葉樹林を植林した事と、農地に造成した事です。一方では休耕地が有り余っているのに里山を伐採し、畑をどんどん増やし泥水を川にタレ流す。また一方せつかく保

水力が何十倍もある広葉樹林を伐採しては保水力のない杉を植えて洪水の元凶とした。中でも捨て置けないのは、間伐の手入れをせずに放置しているために密植になり、互いに枯れる前に子孫を残そうと杉花粉を飛ばし、人体および他の生態系に多

大な悪影響を及ぼす加害者であることを「杉山」の持ち主に警告したい。杉林を増やしたために子供の頃野山に咲いていた鈴蘭、黒百合、女郎花など様々な草花は完全に絶滅に追いやり、姿を見ることができない。保水力がないために雨が降るとすぐに洪水になり、また平素は当時の半分以下の水量の少ない川になってしまった。

さらに河川改修という名のもとに川魚の住めない川にしてしまい、いまでは「カジカ」、「川海老」、「ゴタッペ」、「川ガニ」、「八つ目」、「ゴリ」、「白魚」、「トゲウオ」等々完全に姿を消した。泥水と農薬のせいである。その農薬、泥水が流れ着く海においてまたしかりで、数々の魚介類の漁に影響を及ぼしていると思います。「杉林」を整理して昔のふるさとに甦えらせてほしいものと「杉林」の持ち主の方々にお願ひしたい。

もう人々を「花粉症」で苦しめないでほしい。杉林が少ない頃は花粉症などという人々を苦しめる悪玉はなかったものです。自然のままの広葉樹林が保水力をもてるまで育成するには、針葉樹林より年月を要する事であるが、川を甦えらせるには、泥水、農薬のタレ流しがなくなつて三年もあれば十分です。常磐炭坑群があつた茨城県のある川は閉山になり洗炭を止めた次の年に鮎やその他の多くの川魚が棲む清流に蘇つた事実を体験しました。わがふるさと上磯町の人なら、このように自然環境を破壊して人を苦しめて平気でいられる人はいないと思う。何等かの事情で間伐や広葉樹林の植林ができないでいる人だと思ひます。利用価値の少ない杉ですが、何か商品化するとか、さらに国庫補助で山村に環境保全森林の育成のために新しく雇用の場を設けることができ、再びふるさととの自然が甦ることを念願するものである。

◆ふるさと訪問御礼◆

◇小林 末子（江戸川区在住）

上磯訪問の折は役所の皆様の暖かいお出迎えに唯々感激するばかりでした。ムクゲの花のバスと同じ色の旗の列は、清川の桜と同じ様に心にやきついていきます。

楽しい時を過ごせました事感謝しています。休日返上して最後迄お見送り下さいました皆様本当にありがとうございます。尚、記念写真お送り頂き合せてお礼申し上げます。

◇本間 正司（江東区在住）

東京上磯会のふるさと訪問に参加して地元のアたたかい歓迎を受け、心から感謝しております。訪問の時期にもめぐまれ、松前や陣屋跡の桜には今年二度目の花見が出来て大変感激致しました。又、上磯町の文化を大切に新しい町作りに努力されている様子が見受けられ心暖まる思いがしました。

役場の方には、休日にもかかわらず心からのもてなし、本当にありがとうございます。ございました。

◇石塚美耶子（江東区在住）

故郷訪問に参加し今迄気にもとめなかつた良き故郷再発見の旅でした。自分の過ごした時代から比べると上磯もかなりのスピードで近代化が進み町並みも様子が一変してしまいました。その中で古き良きもの保存も良く、十分自分の故郷を満悦できました。又、歓迎の懇親会の席に母も同席させてもらい、楽しいひと時を過ごす事ができ、役場の方々いろいろ御配慮いただきありがとうございます。御座居ました。

今後共、東京上磯会を大きく盛り上げ、地元上磯町の発展の為努力したいと思えます。

◆新人会員です。

よろしくお願ひします。

小笠寺直巳（茨城県龍ケ崎在住）

東京上磯会に加入して、三年目の新人会員です。したがって、総会には昨年始めて出席しただけです。東京上磯会の存在を知ったのは、丁度三年前。たまたま、函

館市東京事務所の方を通じてその存在を知り、同時に、相馬会長から、ご丁寧なご案内と会報のご送付を賜り、早速仲間入りさせて頂いた次第です。

昨年始めて出席した総会には、知人は、ほとんどいなく随分寂しい思いをいたしましたので、今回の郷土訪問の参加についても一時迷いましたが、今になってみると本当に参加して良かったと思っております。今回の参加で多くの方々を知ることができたからです。はじめは、顔を知らなくても二度目からは顔見知りになるからです。今年の総会は、今から、楽しみに待っています。

郷土訪問につきましては、企画・運営された会長はじめ役員の皆様と町ご当局的暖かいご配慮に、ただただ感謝するのみです。ありがとうございます。海老沢町長・谷杉町議会議長をはじめ、町会議員・町当局の皆様には、大変お世話になりました。お陰様で、極めて短い時間で、郷土の発展状況を知ることができました。また施設の整備状況も要領よく視察でき、大変有意義な郷土訪問でした。我が故郷・上磯のますますの発展をお祈り申し上げます。

これからも、いろいろな企画をお願いいたします。



横浜の「ドラキチ」くん

佐藤金也（横浜市在住）



この会報が配られる総会の頃には、中日ドラゴンズの十一年振りの優勝が確定していることでしょう。

二位巨人に五ゲーム差をつけて首位で前半戦を終えた星野竜。周囲の期待がいやが上にも盛り上がる、視界にあるのは十一年振りの優勝である。この八月は文字通りの熱い夏となった。この原稿を書いている八月二十一日（土）で二位巨人とのゲーム差は七・五ゲームとなった。何と言っても八月十七日から名古屋ドームでの巨人戦で三連勝したのが大きい。逆転、サヨナラ勝ち等で流れは中日にきた。優勝をほぼ手中にしたと確信した。しかし今年の原動力は何か？やはり投手陣の頑張りか。先発陣に続き中継ぎ陣が自分の責任を果している。岩瀬、落合、

サムソン、押さえのソンもいい。このストッパーカルテットが充実してきた。接戦に強くなったのも明るい材料だ。今は競馬で云えば三コーナーから四コーナーにさしかかるところへきた。もう少し投手陣は息切れせずに巨人、横浜をたたいてほしい。

それにしても横浜が上ってきた、鋭い追い込みである。二位巨人も決して安泰ではない。ここ一ヶ月で大勢は決まるが中日ドラゴンズの相手は横浜になるのか？佐々木大魔神がヒジの手術で入院すると云った途端に十連勝するところを見るとやはり底力があると云わざるを得ないか；しかしどんなゲームでも最後のストッパーが不在なのは不安材料である。佐々木大魔神が戦列を外れたのが命運を分ける気がする。

さてそこで今後の展開だ。もちろん、五ゲーム差があるので九割優勝はする、だが残りの一割だ。ここで充分考えておかないといけないのは、中日ドラゴンズは伝統的にプレッシャーに弱いという点だ。四十四年間日本一になつていないチームだ。単純に計算すれば十二年に一度日本一になれるのになれない。今年だつて阪神に追い上げられた重圧で一度だけ

新時代の家づくり 安全と安らぎの住宅建築

一般建築設計施行

株式会社 小林建設

代表取締役 小林 法雄

〒049-0101 上磯町追分4丁目10番2号

TEL.0138-73-5597 FAX.0138-73-6565

二位になったでないか。ホント、プレッシャーに弱い！ドラキチはこれを計算に入れておかないと泣きを見ることになる。そうすると展開は自然に見えてくる。もし横浜に並ばれる様なことがあればVは横浜へいく。しかし三ゲーム差以上を保つことが出来れば中日ドラゴンズだ、当然作戦は決まってくる、先手必勝で横浜をたたく。敵は横浜だ！初戦は死にも

狂いで勝つ、横浜さえ倒せば十一年振り
のVは一〇〇%転がり込んでくる。最後
にドラキチが唯一心配していることがあ
る。『今年のベナントは九十九%ずうつ
と首位だったけど終った時は二位だつ
た』なんて悪夢にならないようにしてく
れよ。

茂辺地中学校昭和36年卒業

交遊抄

佐藤金也（横浜市在住）

五年程前に東京勤務となつてから、時折彼とは旧交を温めながら適切な助言を頂いている。

函館への汽車通学の頃から彼は徹底した自己管理と謙虚な性格から皆に一
目置かれる存在で私も尊敬していた。

その彼とは今でも時々会っている。互いに酒を酌み交し四〇数年前に夢を
見て何かを目指し胸が熱く高鳴った日々がつい昨日のように思える。豊富な
知識確かな記憶、特に我等の田舎茂辺地を熱っぽく語る彼の情熱的な姿を見
ると何か微笑ましくもあり、又安心もするものです。

会うたびに強烈なエネルギーを重んじる厳しい総務部長さんなのですが
「人間のすることに無駄なものはない」と言う彼の言葉を信じて今後もお付合
いをつけていきたい。今でも電話があれば他の約束をキャンセルしてでも会
いに行く唯一の友人です。

その彼とは上磯会の世話役をしている茂辺地中学校の同窓、坂本東洋志君
である。

パルプ、一般建築材、原木売買、薪、シイタケボダ木
木炭製造・販売、しいたけ生産・販売、その他造林、造材一般

山下林業

■代表 山下 勇

〒049-0151 上磯町桜岱166

TEL.0138-73-7626

じつちゃん「私のなかの祖父」

中田真樹子（千葉県柏市在住）

道で私を見かけると「オウじつちゃん
ご」と呼び止めるお爺さんがいた。私の
知らない人なのだが「そのなつき（ひたい）
を見れば、どこの子かすぐに分かる
んだ」と言つて、にこにこ声を掛けてくる
のだ。私の広い額のでっぱり具合が、祖父
にそっくりだと言ふ事は周りからも聞か
されていたし、遠縁の叔父などはいつも
じつちゃん孫々で、ついで名前を呼んでもら
えなかった（本当は私の名を覚えていなか
ったのかもしれない）。そんなわけで、もの
心がつく頃には亡くなつていたにもかかわ
らず祖父は私の内に居た。

当時住んでいた家には、子供の目から
見ると大きな納屋が有り、その二階には
使われなくなった襖や畳が積んであった。
祖父が網元をしていた時代の漁網や、錆
びた銚やヤスなども雑然と置いてあった。
家族が多いうえに、人の出入りもあり同
居人も居て、人見知りをするような子供
だった私はよく一人になりたいと思ひ、そ
んなときは納屋の二階に行くのだ。そこ
は古い道具の匂いが満ちていてなぜか懐
かしく、唯一安らげる空間だった。自分の

隠れ家と決めていたその場所では、古い
漁網に寄りかかり辺りに積んである本を
読んだり、読んだ話の続きを空想して
過ごしたものだ。漁網は潮とも魚ともつ
かない二オイが残つていて（気がしただけ
かも知れないが）想像を掻き立ててくれた
ものだから、この網でじつちゃんは漁をし
たのだろうかと思つて決つていたところ
があつた。そして家族の思い出話に、あ
ぐらをかけた膝に自分によく似た赤ん坊
を抱き、横座にすわつていたという祖父。
古網の二オイとあわせ、私は、写真でしか
見たことのない祖父を感じていたようだ。

低学年のときに川で二度溺れたことが
ある。いずれもスツと手が伸びてきて助
けられるのだが、二度目は、このまま死
ぬのかもしれない、という恐怖を味わつ
た。助けてくれたのは同級の男子であり、
近所の人だったにも拘らず「この人達の
手を借りて、じつちゃんが私を守つてく
れたに違いない」と、長いこと思い込ん
でいたものだ。今ではセピア色になつて
しまった小学生の頃のことである。

茂辺地中学校卒業



生石灰、消石灰製造、セメント、アサノフィルター
アサノクリーンセット、碎石、砂、塩カル、重油S、アスファルト他販売

北海道石炭開発株式会社

〒049-0141 上磯町谷好2丁目4-1
TEL.0138-73-2038 FAX.0138-73-4785

第四回総会・懇親会報告

第四回総会は平成十年十月十七日、東中野日本閣で開催された。今回は案内の発送が遅れたために減ったが、当日出席者を含めて八〇余名の参加者があった。来賓としては、町長の代理として小野建夫総務部長が出席されて祝辞を述べられ、窓口担当の土澤克彦課長や上磯商工会の宮崎高志副会長も出席された。ふるさと連合会の曾我浩侑会長からも祝辞を頂き、隣の松前会からは弦巻鋼男会長も出席して下さった。

出席者数は出身学校別に整理すると、

- ・上磯小 三〇名
- ・石別小 一五名
- ・茂辺地小 一二名
- ・谷川小 六名
- ・峯朗小 四名
- ・沖川小 二名
- ・浜分小 二名
- ・その他 三名

合計七四名の出席があった。

その他に当日参加された方が十数名おられるが、出身校が未整理の為、出席者数には加えられていない。

最近急増している七重浜地区の出身者の出席が少ないので、第五回の総会（平成十一年十月十六日（土）東中野・日本閣）には各人の友人・知己に声を掛けて、なるべく多数参加し盛会が期待できるように御協力をお願いします。

事務局からの連絡とお願い

(一) 年会費の納入について

毎年納入していただいております本会の会費は、納入成績が振るわず会の運営に支障を来している実情です。会費の納入について格別の御協力をお願いします。

納入に關しましては同封の郵便振替え用紙を使用すると手数料はかかりません。

(二) 会員名簿の発行について

本会が発足して五年になりますので、名簿の改訂発行を計画しております。旧名簿に変更がありましたら、新会員の紹介も併せて御連絡をお願いします。

(三) 役員・幹事一覽について（別表）

本会の幹事は出身校別（*印）に選出されておりますので、連絡は当該幹事を通じてお願いします。峯朗、沖川、その他は上磯の幹事当てにしてください。

(四) 会員の現状 出身小学校別

（現用名簿による）

- ・上磯小学校一三二名
- ・浜分小学校三二二名
- ・谷川小学校 三九名
- ・石別小学校三二二名
- ・茂辺地小学校三四名
- ・峯朗小学校 八名
- ・沖川小学校他 七名

総計 二八四名

別表 幹事名簿を掲載

編集後記

「ふるさと訪問旅行記念号」を『磯の香』四号としてお届けします。押し迫ってから発行の計画をしたために、準備不足で前号までのような体裁をとれなかったことをお詫び致します。

先日新聞がお盆に故郷に帰る若者が減っている現象を嘆いて「ふるさとは、遠きにあるに思っただけ」という見出しをつけて、思うだけで帰らない人が四五%にもなっていると報じていた。目まぐるしい社会の変動に、ふるさとへの郷愁などに浸る余裕がなくなったのでしよう。とすれば、「遠きにありて思うもの」とは、遠くて簡単に帰郷できなかった時代にふるさとに寄せる思いのことであって、われわれ高年齢者に特有の感情でしかないと言われるのでは何とも悔しい限りである。

望郷の念とは、親や兄妹への肉親の情、友達や隣人に寄せる想い、育まれた山川に対する郷愁であって、これらに潜在するものは、優しくて思いやりのある暖かい心に他ならない。若者にこのような感情が希薄になってきたとすれば、わが国の高度成長に起因するものに違いなし。豊かさと平和とに浸り続けているうちに、人間として一番大事なものが失われようとしている。ふるさと会というものは、この感性の荒廃の歯止めとしての役割を担うためにも重要な存在であると実感している。（相馬記）

上磯会・役員一覧表

役職	氏名	〒	住所・勤務先	☎
会長	相馬 正樹	249-0052	逗子市沼間5-17-20 *上磯	0468-73-8849
副会長	小田島二郎	191-0052	日野市東豊田4-11-11 *上磯 テクノアーツ研究所	0425-84-3326 0423-62-9201
副会長	郷内 繁	157-0062	世田谷区南烏山2-31-31-211 *上磯	03-3305-0002
副会長	宮崎 紀夫	279-0013	浦安市日の出5 海風の街4-608 *上磯	047-354-6671
事務局長	高橋 昌三	169-0075	新宿区高田馬場4-40-26 *石別 サンジョルジュ101	03-3362-2232
会計監査	相馬 滋	237-0066	横須賀市湘南鷹取2-1-7 *上磯 都市美装(株)	0468-85-7256 03-3374-0008
会計	佐々木紀昭	359-0024	埼玉県入間郡大井町亀久保461-1-305 *谷川	0492-78-5866
幹事	浅部 敏彦	165-0034	中野区大和町2-25-10 *上磯 西部土地(株)	03-3336-5535 03-3360-1544
幹事	嵐 良司	365-0041	鴻巣市小松1-7-3 *浜分 昭和コンクリート工業(株)	0485-42-7894 048-645-1751
幹事	石塚美耶子	135-0011	江東区扇橋3-2-3-202 *上磯 新明和エンジニアリング(株)	03-5606-8754 03-3798-2382
幹事	加藤 和子	195-0061	町田市鶴川5-4-6-302 *茂辺地 中外国島(株)	0427-35-5367 03-3669-4316
幹事	坂本東洋志	181-0001	三鷹市井の頭5-19-4 *茂辺地 日本サルベージ(株)	0422-48-5463 03-5762-7171
幹事	佐藤 金也	233-0013	横浜市港南区日野3-10-1-612 *茂辺地 (株)アイトー	045-848-2814 03-3472-8155
幹事	関谷 幸子	175-0082	板橋区高島平2-28-1-320 *上磯	03-3937-7576
幹事	高橋 宏和	177-0052	練馬区関町東1-4-6 *石別	03-3928-7518
幹事	長谷山隆嗣	243-0303	愛甲郡愛川町中津3561-9 *谷川	0462-85-5543
幹事	平野富久子	136-0074	江東区東砂7-10-17-306 *上磯	03-3646-9351
幹事	福原 和子	262-0064	千葉市花見川区長作町59-4 *上磯	043-250-2390
幹事	福原 孝久	274-0816	船橋市芝山3-30-15-502 *上磯 岡田建設(株)	0474-65-8579 0474-65-8579
幹事	藤田 幸	168-0081	杉並区宮前3-1-2 *浜分	03-3334-5765
幹事	山下 勇吉	314-0007	鹿島市神向寺字後山 *谷川 カシマサッカースタジアム 住友金属	0299-90-7088
幹事	石井 郁子	179-0085	練馬区早宮4-44-1-306 *谷川	03-3992-0454

東京で語りましょう、かみいそを

東京上磯会 総会・懇親会 の御案内

初秋の候、いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。わが上磯会も、会員皆様の御協力によりまして益々発展を続けております。

さて今年の総会・懇親会は下記の通り開催しますので、例年の通り友人知己お誘い合わせの上ご出席を賜りたく御案内申し上げます。

記

- 日 時 平成11年10月16日(土)
15時30分より 3時間
- 会 場 日本閣 東中野店
電話：03-3367-2222
中野区東中野15-1
JR東中野駅下車、東口改札口を出て
左降り口階段を出て目前
- 会 費 7,000円 但し女性会員6,000円
年会費未納の方は2,000円を追加納入して下さい。

尚、出欠の御返事は同封の葉書で
10月10日までに投函して下さい。